

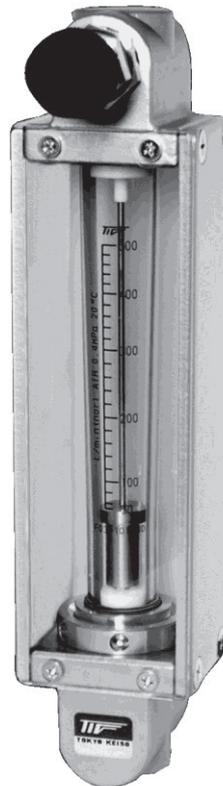


P-510シリーズ

パージメータ

IM-F2521-J00

取扱説明書



他の警報が付属となっている場合は、本書に加え下記取扱説明書を参照してください。

付属機能	製品形式	参照取扱説明書番号
PAU アラームユニット	P-51□-□E-□□-□□	IM-F391

P-510シリーズ

ページメータ

目次

はじめにお読みください

■ 本書で使用しているマークについて	I
■ 一般的な注意事項	I
■ 電氣的接続について	II
■ 材質について	II
■ ガラス、樹脂を使用している製品について	II
■ ガラス管・樹脂管面積流量計の使用について	III
■ 防爆仕様で納入された製品について	III
■ 保守、点検について	III

1. 製品概要	1
1.1 製品概要	1
2. 標準仕様	1
3. 標準外形寸法	2
4. 受け入れ・保管	3
4.1 受け入れ	3
4.2 保管	3
5. 設置	3
5.1 標準タイプ (パネルの前面ねじ取付)	3
5.2 パネルの前面ロックナット取付の場合	4
5.3 パネル埋込取付の場合	4
5.4 配管による直接支持の場合	5
5.5 特殊取付・配管方法	5
5.5.1 流れ方向下→上 (特殊) の場合	5
5.5.2 フランジ接続の場合	5
5.6 取付角度	6
5.7 配管清浄化	6
5.8 上下流直管長	6
5.9 含有固形物	6
5.10 耐食性	6
5.11 配管準備	6
6. 警報付形式の場合 (P-51□-A/B/C/D) の場合	7
6.1 結線	7
6.2 リードスイッチ定格	7

6.3 警報動作.....	9
6.4 警報動作点の変更.....	10
6.5 警報動作（上下限）の変更.....	10
6.6 警報リードスイッチの交換.....	10
7. 運転.....	11
7.1 運転開始.....	11
7.2 流量の読み取り方.....	11
7.3 流量換算.....	11
8. 保守・点検.....	12
8.1 分解・清掃・再組立.....	12
8.1.1 標準金属材質の場合.....	12
8.2 予備品.....	13

はじめにお読みください

このたびは弊社製品をご採用いただき、まことにありがとうございます。

この取扱説明書には本製品の設置方法、取扱い上の注意事項等が記載されていますので、ご使用前に必ずご一読ください。

■ 本書で使用しているマークについて

本書は、弊社製品のご使用に際しお客様にご注意いただきたい内容について記載しています。

この記載内容は弊社全製品に共通する事項となります。

次の表示の区分は、表示内容を守らずに誤って使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。



この表示は、取り扱いを誤った場合に「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



この表示は、取り扱いを誤った場合に「軽傷を負う可能性または物的損害の発生が想定される」内容です。



弊社製品を安全かつ正しくご使用いただくための内容です。

■ 一般的な注意事項



- 製品は工業計器としての用途にのみ使用し、その他の用途には使用しないでください。
- 製品は工業計器として最適な品質管理のもとに製造、調整、検査を行い納入しております。みだりに改造や変更を行うと本来の性能を発揮できないばかりか、不具合や事故の原因となります。改造や変更は絶対に行わないでください。改造や変更の必要がある場合は弊社までご連絡ください。
- 仕様書に記載された仕様範囲内での使用を厳守してください。この範囲を超えた条件での使用は故障、破損の原因となります。
- 設置作業の際は必ず安全靴、手袋、保護メガネなどの防護手段を講じてください。
- プロセスへの設置・接続の際は必要に応じてプラントあるいは装置の停止を行ってください。
- 重量の大きな製品の設置は落下による人体・器物などへの損傷または過大な衝撃、破損などが生じないように吊下方法を含めた安全措置を講じてください。また、製品設置箇所では必要に応じて配管サポート等の処置を行ってください。



- 製品の運搬は納入時の梱包状態で行ってください。運搬作業時は製品の落下による人体・器物などへの損傷または過大な衝撃による破損などが生じないように安全措置を講じてください。
- 開梱後、製品の中には、水、埃、砂などを入れないでください。
- プロセスへの設置・接続に必要な締結部品のボルト、ナット、ガスケット（パッキン）は、原則としてお客様の所掌となります。圧力、温度などの仕様や耐食性を確認して適切なものを選定してください。
- プロセスへの設置・接続の際は、接続継手の規格・寸法合わせが正しいか確認し、接続配管との偏芯、フランジの倒れがないように設置してください。正しく行われない場合は製品の故障、誤動作、破損などの原因となります。



注記

- 保管の際は納入時の梱包状態で保管してください。保管の環境については本書を参照してください。
- 設置後、製品を「足場」として使用するなど、荷重を掛けないでください。故障、破損の原因となります。
- 製品に貼付されているラベルに表示されている注意事項は、必ず守ってください。
- 製品は最適な品質管理のもとに製造、調整、検査を行い納入しておりますが、不測の要因で故障が発生する可能性もあります。運転・安全上の重大な問題が発生するプロセスにおいては、万が一に備えて同様な機能を果たす機器を併設、二重化を行うなど、より一層の安全性の確保を推奨します。

■ 電氣的接続について



警告

- 電気配線（結線）に際しては仕様書、本書などに記載されている内容を確認のうえ、正しく配線（結線）してください。誤配線（結線）は機器の故障の原因となるばかりでなく、事故の原因となることがあります。また、配線（結線）作業の際は電源が遮断されていることを確認し感電に注意してください。
- 電源を接続する製品の場合は、仕様書、本書を参照して電圧および消費電力を確認して適合する電源を接続してください。適合する電源以外の電圧の電源に接続した場合、機器の破損や作動の不具合、事故につながる恐れがあります。
- 通電中は、感電事故防止のため内部の機器には絶対に触れないでください。



注意

- 設置工事から電気配線作業完了にいたる間、雨水などが製品内に入らないよう注意してください。また、配線完了後は遅滞なく正しく防水措置を実施してください。

■ 材質について



注意

- 材質の指定がない場合には使用条件・運転条件から最適な材質選定に努めておりますが、実際のプロセスにおける使用条件・運転条件につきましては知見できないこともあります。最終的な材質の決定および耐食性や適合性の確認はお客様の責任で行ってください。製品の材質は仕様書に記載されています。

■ ガラス、樹脂を使用している製品について



警告

- 製品の接液部または測定部、表示部の材質にガラス、樹脂を使用している場合、過度の加圧、温度衝撃、急激な流体の流入の衝撃圧などによりガラス、樹脂が破損する場合があります。万が一破損した場合、ガラス、樹脂などの破片が飛散するなどして二次災害および作業者に危険が及ぶ恐れがあります。破損の原因となるような運転条件にならないように注意してください。また、飛散防止の措置を行ってください。



注意

- 運搬、保管および運転に際しては、ガラス部、樹脂部に機械的衝撃を与えないように注意してください。
- ガラスはアルカリ系溶剤で侵食されます。アルカリ系溶剤は使用しないでください。
- 樹脂は溶剤系の液体で破損することがあります。仕様書、本書などに記載されている流体以外には使用しないでください。
- 樹脂は使用環境により劣化が早まる場合があります。設置ならびに運転にあたっては、樹脂の耐食性、紫外線耐性などの耐環境性に考慮してください。

■ ガラス管・樹脂管面積流量計の使用について

ガラス管・樹脂管面積流量計は以下の事項に配慮して使用してください。



- 以下の流体条件および使用環境では、ガラス管・樹脂管面積流量計は不適ですので設置しないでください。
 - ・衝撃圧力がある、あるいは衝撃圧力が予想されるプロセス
 - ・万が一ガラス管/樹脂管が破損した場合、二次的な災害が予想されるプロセス
 - －毒性（刺激性、麻酔性などを含む）のある流体
 - －引火性のある流体
 - －爆発性のある流体
 - ・ガラスが破損した時にガラス片が飛散し、人身事故などが考えられる場合
 - ・設置場所が、外部からの飛散してきた異物などでガラスの破損が考えられる場合
 - ・運転が ON/OFF 運転で、フロートが急上昇し、その衝撃でガラスが破損すると考えられる場合
 - ・流量計に温度衝撃（急冷/急騰）が加わる、あるいは温度衝撃が予想されるプロセス



- 接液部または測定部にガラスおよび樹脂を使用している製品において、運転停止に伴い流れが停止して測定液体が測定管内に残留した場合、周囲温度が氷点下になると液体が凍結してガラス、樹脂を破損する恐れがあります。（一般的には冬期に運転停止して液抜きをしないなど）運転停止中に測定液体が凍結する恐れがある場合は、液体を完全に抜き取ってください。
- 樹脂は一般的に金属に比較して機械強度が低く、取扱いには注意が必要です。設置の際は接続配管・継手の寸法違い、偏芯、過大な締結トルクでねじ込むことなどによる機械的応力が加わらないよう注意してください。

■ 防爆仕様で納入された製品について



- 該当する法規・規則・指針に適合した配線、接地工事を確実に実施してください。また、構造の改造、電気回路の変更などは法令違反であり規則・指針に適合しなくなるので絶対に行わないでください。保守・点検については法令・規則・指針に従い、作業を実施してください。



- 製品の防爆等級は仕様書、製品の銘板に記載されています。対象ガスおよび設置場所が防爆関連法規・規則・指針に準拠するか確認してください。

■ 保守、点検について



- 製品を保守、点検などでプロセスから取外す際は、測定対象の危険性・毒性に留意して作業を行ってください。関連する配管・機器類からの漏れおよび残留などにより人体・機器類への損傷が生じないように注意してください。
- 電気を使用している製品では感電事故防止のため、電源が遮断されていることを確認してください。



- 製品の保守、点検については使用条件・運転条件などによりその周期、内容が異なります。本書を参照の上、お客様にて実際の運転状況を確認して判断してください。

1. 製品概要

1.1 製品概要

P-510は比較的大きな流量を測定するパージメータです。現場指示タイプの他警報接点付きがあります。

2. 標準仕様

測定流体	気体全般 液体全般	
流量範囲	空気	最小：2.5～25 L/min (nor) 最大：60～600 L/min (nor) 0°C、0MPaの空気に換算した流量です
	水	最小：0.1～1 L/min 最大：3～30 L/min 密度 1.0 g/cm ³ 、粘度 1.0 mPa・sに換算した流量です
	<ul style="list-style-type: none"> ・流量範囲の換算方法は、P形機能・選定について (TG-S0001) を参照 ・流量目盛を選択の際は、標準流量表を参照 	
目盛範囲	10：1	
指示精度	±5% F.S.	
流体圧力	最高0.8 MPa	
流体温度	最高120°C (パッキン材質によって異なる)	
材質	本体接液部	SCS14 / SUS304 (標準)、SCS14 / SUS316
	テーバ管	耐熱ガラス
	パッキン	ニトリルゴム (NBR) (最高80°C) クロロプレンゴム (CR) (最高80°C) フッ素ゴム (最高120°C) エチレンプロピレンゴム (EPDM) (最高80°C) ・各パッキン材質の最高流体温度は、一般的なデータであり、使用条件や環境によって変わることがあります
	取付板	SPCC、C2801P、SUS304
	カバー	アクリル
接続規格/口径	Rc : 3/8" (標準)、1/4"、1/2"、3/4"、1" NPT : 1/4"、3/8"、1/2"、3/4"、1" SW : 3/8" VCR : 3/8"、1/2"、3/4" フランジ：10A、15A (1/2)、20A (3/4)、25A (1)	
取付方法	パネルの前面ねじ (M3) 取付 (標準) パネルの前面ロックナット取付 ベゼルによるパネル取付 パネル埋込取付 フランジ配管取付 スタンド付	
質量	約1.6 kg	

3. 標準外形寸法

以下に標準外形寸法を示します。



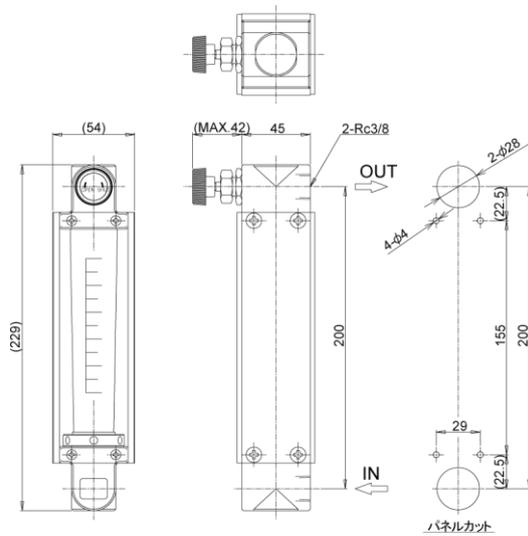
注記

外形寸法は特殊仕様などにより標準外形寸法と異なることがありますので、配管設計などに際しては、寸法および接続規格を納入仕様書で確認してください。

●標準タイプ

P-510-U0-4N-R3

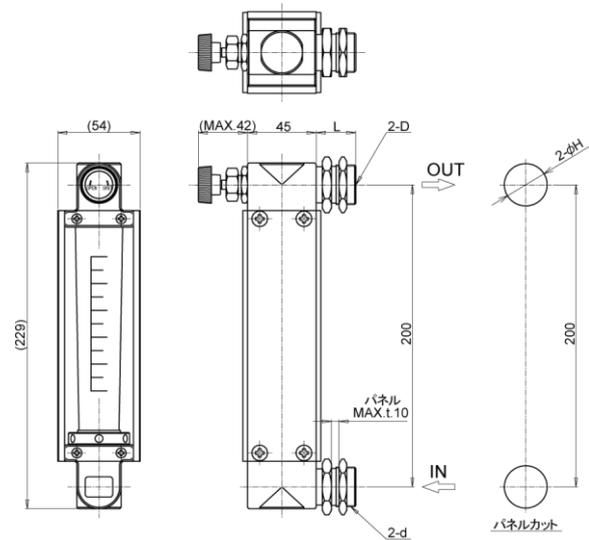
- パネルの前面ねじ取付
- バルブ上側



●パネルの前面ロックナット取付タイプ

P-510-U0-4N-L□

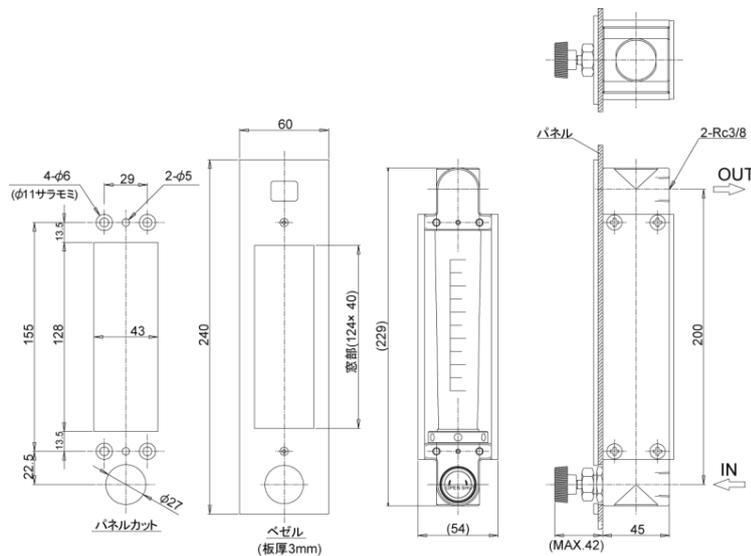
- パネルの前面ロックナット取付
(取付方法オプションコード **A**)
- バルブ上側



●ベゼルによるパネル取付タイプ

P-510-L0-4N-R□

- ベゼルによるパネル取付 (取付方法オプションコード **D**)
- バルブ下側



接続口径		穴径寸法 (mm)	後方寸法 (mm)
D	d	H	L
Rc 3/8	M26	28	26
NPT 3/8	M26	28	26
Rc 1/2	M30	32	26
NPT 1/2	M30	32	26
Rc 3/4	M36	38	28
3/8 SW	M20	22	(34)
3/8 VCR	M28	32	(38)
1/2 VCR	M28	32	(38)

※警報出力コードがA～Dの場合、
パネルは非磁性材を使用してください。

4. 受け入れ・保管

4.1 受け入れ

ご注文の製品がお手元に届きましたら、ただちに下記の点についてお調べください。
もし不具合がありましたら、ご注文先に照合してください。

- 1) 製品形式がご注文通りのものか
- 2) 輸送中の事故などで破損していないか
- 3) 付属品は付属されているか
- 4) その他、ご発注時またはご契約時に承認仕様となった、受入検査項目通りのものか

4.2 保管



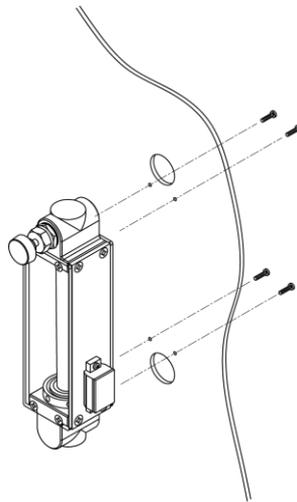
製品を保管する場合は、次の条件にあった場所を選定してください。

- 雨や水のかからない場所
- 温度変化の少ない清潔で乾燥した風通しのよい場所
- 振動の少ない場所
- 腐食性ガスのない場所

5. 設置

5.1 標準タイプ (パネルの前面ねじ取付)

- 1) パネルカットを行います。
パネルカット寸法は継手サイズなどにより異なります。
納入仕様書を参照して、カットしてください。
- 2) パージメータをパネル前面に保持して、固定ねじ穴を利用して所定のねじでパージメータを固定します。

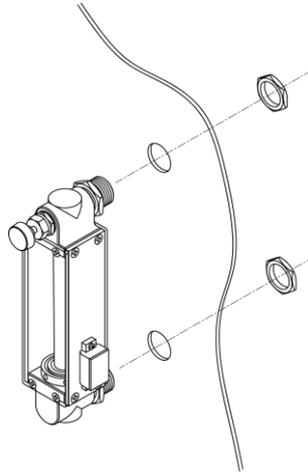


注記

この取り付けのためのねじはお客様の所掌です。パネル厚みを考慮して適品を用意してください。
(標準でM3ねじです。)

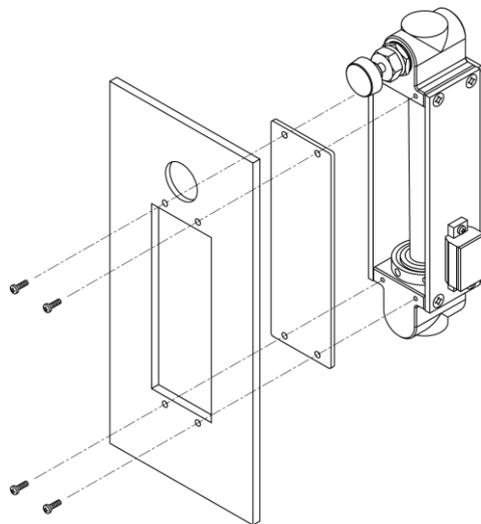
5.2 パネルの前面ロックナット取付の場合

- 1) パネルカットを行います。
パネルカット寸法は継手サイズなどにより異なります。納入仕様書を参照して、カットしてください。
- 2) パージメータの継手の、ロックナットを上下それぞれ外し、パージメータをパネル前面からパネルに挿入します。
- 3) ロックナットを上下それぞれ取り付けて締め付け固定します。



5.3 パネル埋込取付の場合

- 1) パネルカットを行います。
パネルカット寸法はバルブ有無などにより異なります。納入仕様書を参照して、カットしてください。
- 2) パージメータの前面カバーを固定しているねじを外します。
- 3) パージメータをパネル裏面に保持して、保護カバーを共締めしてパージメータを固定します。

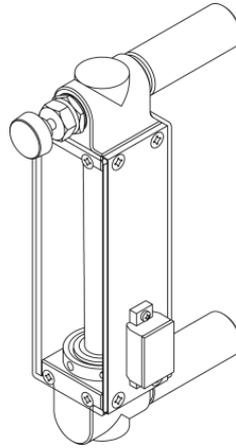


注記

この取り付けのためのねじはお客様の所掌です。パネル厚みを考慮して適品を用意してください。
(標準でM5ねじです。)

5.4 配管による直接支持の場合

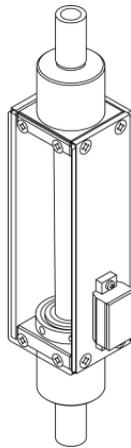
配管で直接支持する場合は、パージメータが安定する配管強度で、また配管振動がパージメータに影響しないような配管構造、サポートなどを考慮してください。



5.5 特殊取付・配管方法

5.5.1 流れ方向下→上（特殊）の場合

標準では流量計本体の下部後方から流入し、上部後方へ流出する流れ方向ですが、ご指定により下→上（ストレート）タイプも製作します。（P-511形）この場合一般的には配管で直接支持する方法で設置することになります。5.6～5.11の注意事項に従って設置してください。



5.5.2 フランジ接続の場合



注記

- フランジ接続の場合特に配管寸法やフランジの傾きに注意してください。寸法が合っていない配管に無理に設置すると破損の原因になります。取付け寸法は納入仕様書で確認してください。
- 配管接続に必要なボルト・ナット・パッキンは特にご指定のない限りお客様の所掌です。適品を用意してください。

5.6 取付角度

いずれの形式（流れ方向）の場合でも、テーパ管が垂直となるように設置してください。許容誤差 2° 以内。



注記

傾いて設置すると（パネルが傾いている）、指示誤差や動作異常の原因になります。

5.7 配管清浄化

配管にパージメータを接続する前にプロセス全体をフラッシングしてごみや埃などの異物を除去してください。運転開始後異物がパージメータに混入すると、詰まりの原因となり正常動作しないことがあります。

5.8 上下流直管長

他の流速検知形の流量計と異なり、当流量計の上下流には直管部分は必要ありません。

5.9 含有固形物

計測流体中に固形物があると、フロートの動作を阻害して指示誤差や故障の原因になります。上流側にストレーナを設置するなどして固形物を除去してください。

5.10 耐食性

製品の材質は納入仕様書に記載されています。弊社でもお客様の流体仕様をお伺いし、材質選定に努めておりますが、実際のプロセスでは混入物などもあり万全ではありません。最終的な耐食性の判断はお客様の責任で行ってください。

5.11 配管準備

接続規格は納入仕様書を参照して、適合する継手を用意してください。



注意

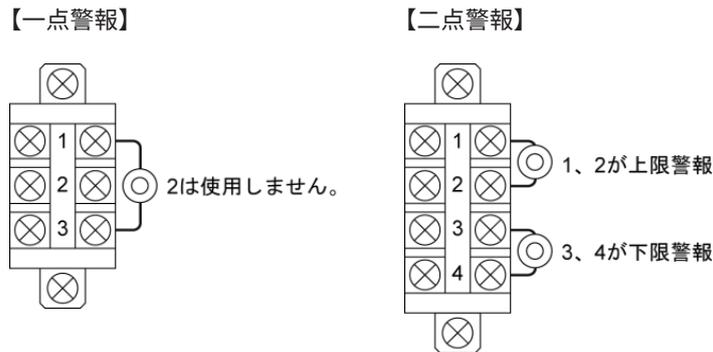
- 特に金属配管を接続する場合は接続寸法を正しく合わせて配管を準備してください。面間寸法が合っていない配管を無理に接続すると、配管応力でパージメータが破損することがあります。
- パージメータの下方から計測流体が流入し、上方から流出するよう正しい流れ方向で配管してください。

6. 警報付形式の場合 (P-51□-A/B/C/D) の場合

6.1 結線

警報付きの形式の場合は流量計を設置完了後、警報接点の結線を行います。

- 1) 端子ねじはM3.5ねじです。圧着端子などを用いて確実に結線してください。
- 2) 警報接点はリードスイッチです。磁力により駆動されます。近傍に動力機器などがあると、動力機器から発生する磁界により誤動作することがあります。



6.2 リードスイッチ定格

【規格なし】

最大開閉容量	10W・DC	10VA・AC	} いずれも超えないこと
最大使用電圧	1～100V・DC	1～125V・AC	
最大使用電流	10 μ A～0.5A・DC	10 μ A～0.5A・AC	

【UL規格】

最大開閉容量	10W・DC	} いずれも超えないこと
最大使用電圧	24V・DC	
最大使用電流	10 μ A～0.5A・DC	



注記

上記定格は、抵抗負荷の場合を示します。下記負荷を使用する場合には突入電流により接点の溶着を生じることがあります。突入電流の最大においても上記の定格を超えないように使用してください。

負荷	突入電流
ランプ負荷	定常時の10～15倍
電動機負荷	定常時の5～10倍
誘導負荷	定常時の4～5倍

●CEマーキングの対応について

リードスイッチ付製品をヨーロッパEU圏へ輸出する場合、次の対応をすることで、CEマーキングの対象外となり、輸出できます。

- 1) リードスイッチの定格を【UL規格】と同じ仕様に限定する。
- 2) お客様の負荷がEMC指令適合品であり、製品設置周囲に、電磁波ノイズの発生源が無いこと。

●対象除外理由

1) EMC指令 (2004/108/EC)

リードスイッチ付製品は、電子部品を搭載した基板がないため、電磁波ノイズの発生源がありません。(外部ノイズの影響は、お客様の負荷や設置状況に依存しますので、弊社では判断できません。)

2) 低電圧指令 (2006/95/EC)

リードスイッチの定格を【UL規格】と同じ仕様にすることで、低電圧指令範囲 (AC50～1000V、又はDC75～1500V) の対象外となります。



注記

- リードスイッチ付製品は、フロート内のマグネットおよびリードスイッチ内のマグネットの磁力影響による反発もしくは吸引が発生し、流量指示精度から外れる場合があります。また、反発および吸引により、フロート動作に影響を与える場合があります。
- 製品を30cm以上の高さより床等に落下させた場合、接点に衝撃が加わり特性が変化する場合があります。落下等で衝撃が加わった場合は、正常に動作するか確認し使用してください。
- リードスイッチは磁力によって動作します。強力な磁力を発生する近辺では誤動作する恐れがあります。また付近に鉄板などがある場合は、警報動作に支障をきたす恐れがあるため注意してください。
- リードスイッチは保護等級IP67の防塵、防水構造となりますが、端子部や結線部は水などがかかって短絡しないよう適切な防水処置を行ってください。

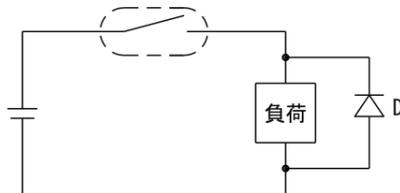


注記

リレー・ソレノイド等の誘導負荷を使用する場合は、最大開閉容量の1/10以下のものを使用してください。また、逆起電圧による接点溶着を防止するため、必ず保護回路を取り付けて使用してください。

【DCの場合】

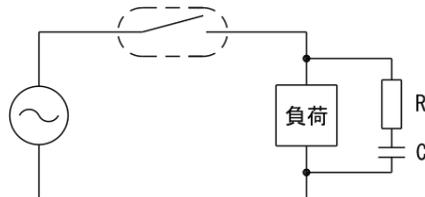
電源電圧の3倍以上の耐圧を持つダイオードを負荷と並列に取り付けてください。



例) 電源電圧DC24Vの場合、100V1Aのダイオードを使用

【ACの場合】

抵抗とコンデンサを負荷と並列に取り付けてください。

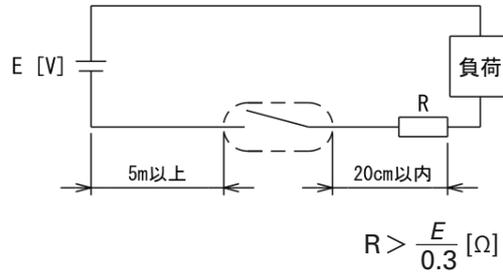


R : 1～5KΩ 1/4W、C : 0.1μ F600V



注記

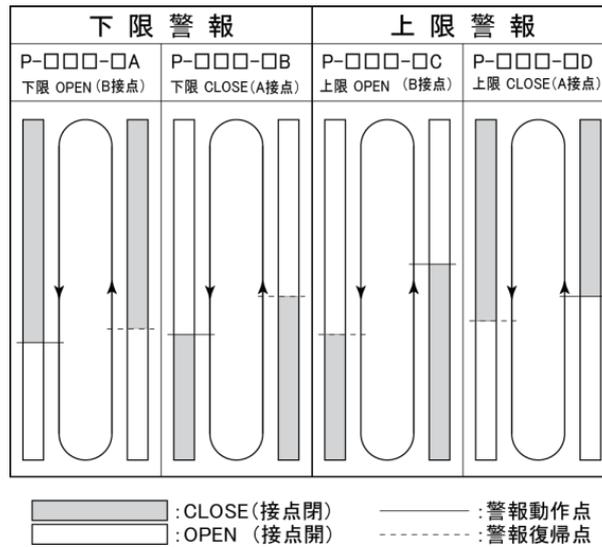
- ケーブル長が長い場合 (5m 以上) は、線間浮遊容量により接点開閉時に突入電流が流れ、接点溶着の原因となります。この場合は本製品に近い位置 (20cm 以内) に抵抗を直列に取り付けて使用してください。



- モータ、ランプ等、最大開閉電流以上の突入電流が流れる場合は、接点溶着を防止するため、リレー等を介して使用してください。

6.3 警報動作

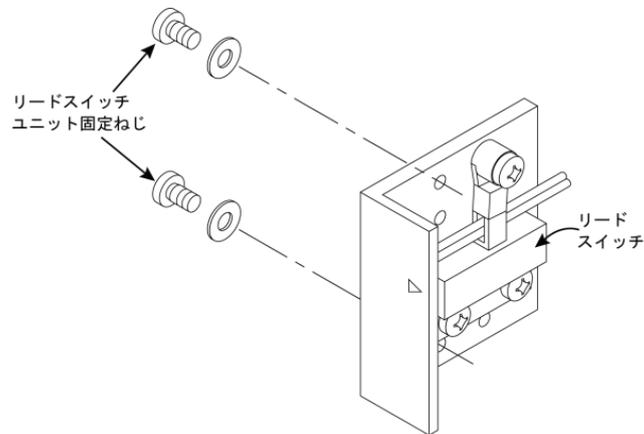
警報動作は図の通りです。設定および警報動作は製品により異なります。納入仕様書で確認してください。



6.4 警報動作点の変更

警報動作点を変更する場合は下記要領で行います。

- 1) 流量計側面のリードスイッチユニット固定ねじを緩める。
- 2) リードスイッチユニット上の三角マークが設定希望点に来るようリードスイッチユニット全体を移動する。
- 3) リードスイッチユニット固定ねじを締め付ける。

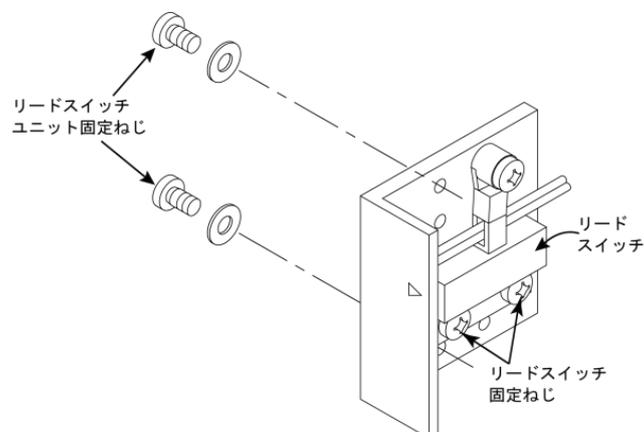


6.5 警報動作（上下限）の変更

原則として現場での警報動作の変更は推奨できません。ご必要な場合はお問い合わせください。

6.6 警報リードスイッチの交換

- 1) 流量計正面の保護カバーを取り外す。
- 2) 端子ブロックを取り外す。
- 3) リードスイッチからのリード線を端子ブロックから取り外す。
- 4) 流量計側面のリードスイッチユニット固定ねじを取り外す。
- 5) リードスイッチユニットを流量計から取り外す。
- 6) リードスイッチを固定しているねじ2本取り外し、リードスイッチを取り外す。
- 7) 新しいリードスイッチを取付ける。（向きに注意）
- 8) リード線をテーパ管の背面を通して端子ブロックに接続する。
- 9) リードスイッチユニットを警報設定点に合わせて取り付けて固定ねじを締め付ける。
- 10) 端子ブロックを取り付ける。
- 11) 保護カバーを取り付ける。



7. 運転

7.1 運転開始

配管接続を確認し、プロセスを徐々に加圧して計測流体をパージメータに導入します。



- 気体計測仕様の場合、電磁弁などにより急激にプロセスを加圧するとフロートが一気に上昇して上部ストッパに衝突し、長期的には破損につながる可能性があります。電磁弁の使用は推奨しません。
- 圧力、温度、流量などの運転条件は納入仕様書に記載の範囲内で使用してください。



- バルブ付きの形式の場合はバルブを操作することにより流量を制御することができます。
- このバルブは流量制御のためのもので、全閉止しても圧力などの運転条件の関係で完全閉止しないこともあります。流体を完全閉止する必要がある場合は別途バルブを設置してください。
- クリープ現象および気温の変化等により袋ナット部から漏洩する場合があります。漏洩している場合は、表1に示すトルク値にて増し締めを実施してください。

【表1：袋ナット締付トルク値】

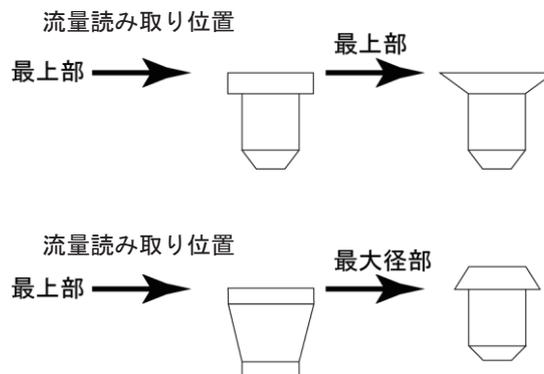
パッキン材質	使用工具	締付トルク値	
		N・m	kgf・cm
ゴム	M19スパナ	2.35	24



- 許容温度衝撃
ガラス管式の場合許容温度衝撃は80°Cです。パージメータが冷えた状態で熱水を流したり、高温洗浄後、急激に冷水を流したりすると、テーパ管が破損することがあります。
- 凍結防止
液体計測仕様で冬季に運転を休止する場合は、必ず配管から液体を抜き、テーパ管内に液体が滞留しないようにしてください。テーパ管内に液体が入ったまま凍結すると、テーパ管が破損します。

7.2 流量の読み取り方

流量値はフロート位置と目盛で読み取ります。読み取り位置はフロート形状により異なります。下図を参照してください。



7.3 流量換算

当流量計はお客様のご指定の運転条件に従って設計、校正し、目盛を付け納入しております。運転条件（液体計測では計測液体の密度、粘度、気体計測では温度、圧力および流体密度）がこの設計条件と異なると指示誤差を発生します。換算方法についてはお問い合わせください。

8. 保守・点検

8.1 分解・清掃・再組立

当流量計は単純機械構造品であり、正しく設置すれば保守の必要はありません。テーパ管内面に汚れや堆積が発生し、指示が見にくくなった場合は、巻末の製品展開図を参照して分解清掃を実施してください。

残留流体に注意してください。特に腐食性、毒性流体の場合は完全に除去してから分解してください。

分解清掃に際しては、

- 1) 再組立に際しては各部品を正しく挿入し、組立ててください。特にフロートの上下の向きには注意してください。
- 2) シール用のOリングやパッキンは再組立時には新品と交換することを推奨します。
(「8.2 予備品」を参照してください。)

8.1.1 標準金属材質の場合

●分解方法

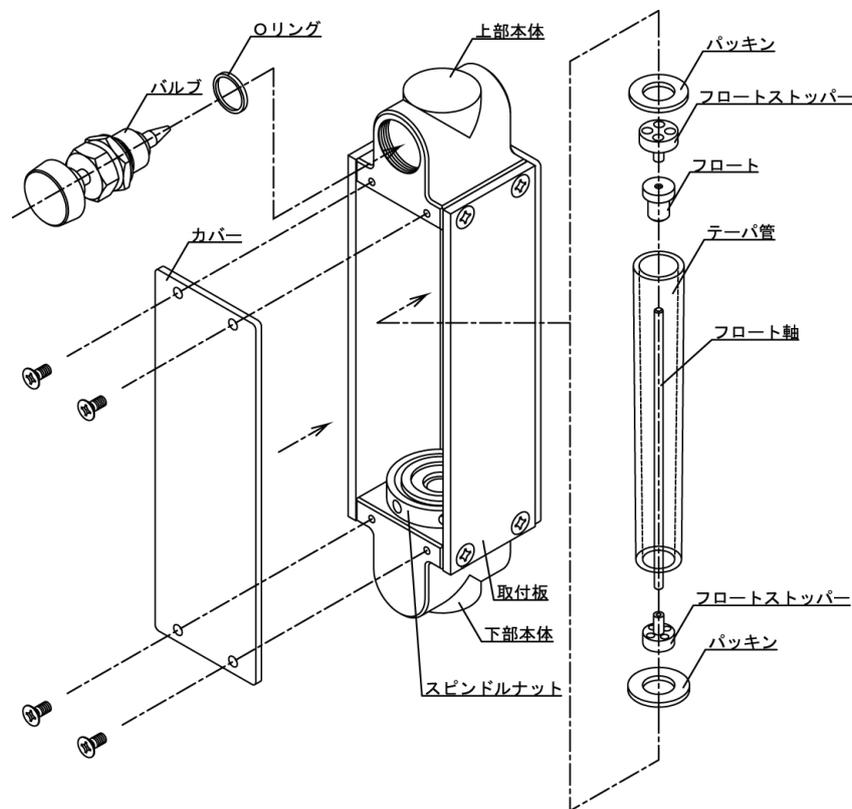
- 1) 流量計から配管を外します。この際残留流体に注意してください。
- 2) パネル取付けの場合は流量計をパネルから外してください。
- 3) 流量計正面のカバーを取り外してください。
- 4) テーパ管はスピンドルナットを回転させることにより、パッキン端面でシールされています。
- 5) スピンドルナットは流量計下部本体にあります。これを反時計方向に回転させると緩み、時計方向に回転させると締め付けられます。
- 6) スピンドルナットの側面の穴に適当な六角レンチなどを差し込み反時計方向に回転させます。スピンドルナットが回転しなくなるまで回し、テーパ管、パッキンを抜き取ります。
- 7) バルブ付きの場合は、バルブは本体にねじ込んであります。本体を保持して、レンチなどでバルブを回転して取り外します。

●清掃方法

- 1) テーパ管内部にはフロート（フロート軸）、フロートストップなどがあります。これらをピンセットなどの適当な器具を用いて取り出します。
- 2) 本体の腐蝕、堆積などを目視確認してください。問題がある場合は清掃してください。激しい腐蝕がある場合は材質の再検討が必要です。お問い合わせください。
- 3) テーパ管内面、フロート（フロート軸）、フロートストップ等を適宜清掃してください。

●再組み立て方法

- 1) テーパ管内部にフロート（フロート軸）、フロートストッパーなどを組み込みます。フロートの上下の向きを間違わない様に注意してください。
- 2) 流量計の中心に組み付けたテーパ管を置きます。パッキンを正しく挿入してください。できれば新しいパッキンとしてください。
- 3) テーパ管を正しく流量計の中心に保持しながらスピンドルナットを時計方向に回転させ締め付けます。
- 4) テーパ管の両端面がパッキンに接触し、テーパ管が保持されるようになってから、さらに3/4回転ほど締め付けします。
- 5) 組み付け後、可能であれば耐圧試験を実施してください。
- 6) また流量計を傾けるなどしてフロートがスムーズに動くことを確認してください。
- 7) 完了後、所定の方法で設置・配管してください。



8.2 予備品

予備品のご注文の際は、当該製品の弊社製造番号と部品名称をご連絡ください。製造番号はテーパ管の目盛の下側に記載してあります。

製造番号例：F16-123456-7



注記

弊社での製造記録の保存は、製造から5年間となっております。製造から5年以上経過した製品については一部製造記録が無く、製作仕様をお問い合わせする場合や、部品製作ができない場合がありますので、ご了承ください。弊社での製造記録の保存は、製造から5年間となっております。製造から5年以上経過した製品については一部製造記録が無く、製作仕様をお問い合わせする場合や、部品製作ができない場合がありますので、ご了承ください。

■ サービスネット

製品の不具合などの際は弊社営業担当か、弊社営業所までご連絡ください。
営業所については弊社ホームページをご覧ください。

■ 製品保証

弊社ホームページをご覧ください。